

野口英世を読んで

「勉強のスイッチ」は三度押される。

A

弟が「お兄ちゃん
何で勉強するの？」
と聞いた

A

お父さんになんで
勉強するの？」と
聞いたらこの本を手
わたしてくれた

野口英世と言えば



なんで、4月に？

左手にやけど

→「ああ、どうしよう」
→お父さんは、その時
どんな気持ちだったろう

お父さんはお酒
を飲んで仕事を
しないので貧乏
だったんだ

「びんぼう、びんぼう」

「じゃんけで、おにきめ」

「僕だったら、どうしよう」

シカの「左手がつかえ
なくても勉強はできる」
このひと言で勉強の
スイッチが入ったんだ

いじめられ子 → 成績
が優秀になる → まわり
の目が変わった

小林先生がエ面
してくれて高等小学
校へ → 先生の、ひ
を勉強させてあげたい
「思い」

清作の作文を読ん
だ先生・仲間が涙
→手術のお金を出し
てくれた

左手の指がひらいた
→この感動が「医者
になる気持ちにスイッチ
を入れる

B

恩人のおかげで
人生がひらいた
んだ(母、先生、Dr.)

母の思い } 勉強
先生の思い } ある
自分の思い } 理由

なんで僕は勉強
するのだろうか？
→おじいちゃんか
スイッチを入れて
くれた

そういえば、バオバ
ママもスイッチを入
れてくれていたんだ

① 弟が言った「なんで勉強あるの？」
僕、「あれ、何にも思いつかない」
お父さんが野口英世の伝記

② 「左手が使えなくても勉強
ができる」シカのひと言。

③ 小林先生の「勉強させてあげ
たい」思いで高等小学校へ

④ 左手が自由になり「医者にな
る思い」に火がつき、さらに勉強

⑤ 「3つの思い」があるから英世は
勉強にはげんだ。そういえば僕
にも「2つの思い」があった